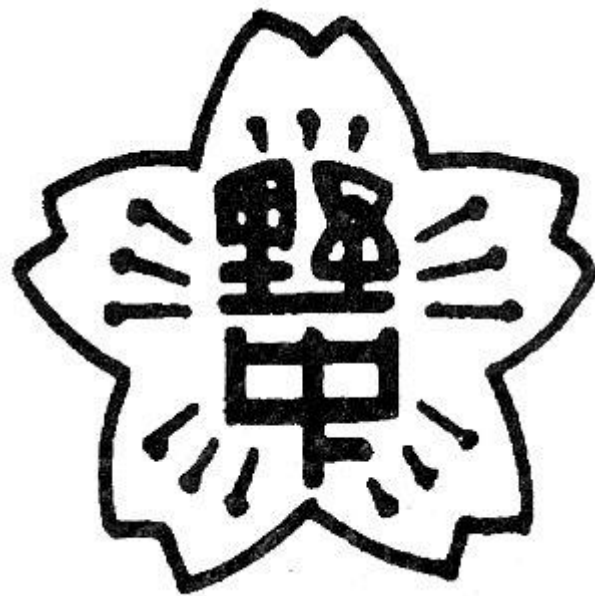


令和 6 年度

「運営に関する計画」
最 終 評 価



大阪市立野中小学校

令和 7 年 2 月

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

本校は、児童の暴力的な行動も少なく、大きないじめの事例もなく、学校全体として落ち着いた状態である。

しかし、数年間の新型コロナウイルス感染症の拡大という問題が出てきたことをきっかけに、不登校児童の登校日数は、減少している。不登校児童は、家庭的な要因等、難しい問題を抱え、解消については困難な点も多いが、今年度も安心して登校できる状態を学校全体として維持しながら、区の子どもサポートネットやスクールカウンセラーなど、関係諸機関と連携しながら、様々な方面からの取り組みを行っていく必要がある。

昨年度は、校内アンケートの「学校は楽しいですか」では、肯定的な回答が、90%以上あった学年も少なくなかった。学年によってばらつきはあったが、今年度も子どもたちが「学校が楽しい」と感じられるように取り組んでいくことが大切である。

また、「学校のきまりを守れていますか」のアンケート結果では、平均して肯定的回答が80%以上ではあったが、下回る学年もあった。これからも継続的に規範意識を高めていく必要があると考える。

また、本校の特徴として、自己肯定感、自尊心が低い傾向が何年も続いていたことがあり、改善に向けて力を入れて取り組んでいる。昨年度の2回目の校内アンケートでは、「自分にはよいところがあると思う」という項目については肯定的な回答が平均して75%を超え、(小学校学力経年調査では、平均72%)昨年度も改善傾向を示している。本校の課題である自尊心の向上を、今年度についても、いろいろな機会や場を工夫し、児童に多くの成就感、達成感を味わわせることで実現していくことを目標としたい。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

本校は、数年に渡り、全教科の学力の基礎ともいえる国語科の学力向上モデル校として、国語科の研究に取り組んできた実績や、算数で習熟度少人数体制の指導に力を入れ取り組んでいることで、全国学力学習状況調査や経年調査においても、全国や大阪市の平均を上回る結果を得られる教科も少なくなかった。しかし、学年、また、個人によって学力に大きな差があり、個に応じた指導・支援が必要である。

また、主体的・対話的で深い学びを進めるために、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする活動を行っていく必要がある。

体力に関しては、昨年度は、5年生男子の体力合計点は、全国平均より2.52ポイント上回り、大阪市よりも3.98ポイント上回っており、種目別に見ても、大阪市の平均を全て上回っていた。女子の体力合計点は、大阪市の平均より0.66ポイント上回っているものの、全国平均より1.61ポイント下回っていた。昨年度よい結果であった男子のように、運動が好きであり、進んで運動する姿勢を育てることが重要であると考え。楽しく運動する機会を与え、体力の向上を図っていく取り組みを行っていく必要がある。

【学びを支える教育環境の充実】

一人一台端末を毎日活用し、授業での有効活用を行うようにしている。今年度も、個別最適な学びと協同的な学びを実現するために、さらなるICTの効果的な活用についての取り組みを進めていく。

学校図書館に関しては、図書館司書との連携をとりながら、図書館の活性化する取り組みを行ってきた。今年度も学校図書館を有効活用し、様々な学習における利活用の促進を行っていききたい。

また、コロナ禍も終わり、昨年度は、生涯学習やはぐみネットを中心に児童の健全育成にかかわる取り組みをしていただくことができた。今年度は、保護者、地域の方々に関わっていただく学校行事を丁寧検討し、より適切な時期や内容で実施したいと考えている。また、情報を保護者や地域に発信し、学校理解を促進したいと考えている。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査及び校内アンケートの「自分にはよいところがあると思いますか」の肯定的な回答を80%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- 令和7年度の校内調査の暴力行為を複数回行う児童の数を0にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査及び校内アンケートの「学校のきまり守っていますか」の肯定的回答を88%以上にする。
- 令和7年度に新たに不登校になる児童の割合を0にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査及び校内アンケートの「学校は楽しいですか」「すずんであいさつしていますか」の肯定的な回答を90%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を33%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「英語の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。
- 令和7年度の全国体力、運動習慣調査において、各種目の対全国比を1.00以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を65%以上にする。
- 感染症の予防について理解させ、自分の健康に関心を持つ児童を育成する。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業において学習者用端末を毎日使用し、ICTの効果的な活用を図る。
- ゆとりの日を週に1回設定し、教員の時間外勤務の削減に取り組む。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 令和7年度の校内アンケート（保護者向け）の「学校は教育活動や学校行事についてわかりやすく伝えよう努力している」「学校は、保護者や地域の方々が気軽に学校に来られるように努めている」の肯定的な回答を85%以上にする。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査及び校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- 新たに不登校になる児童の割合を0にする。
- 小学校学力経年調査及び校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 小学校学力経年調査及び校内調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を30%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「英語の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を72%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を60%以上にする。
- 感染症の予防について理解させ、自分の健康に関心を持つ児童を育成する。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）
- ゆとりの日を週に1回以上設定する。また、年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を70%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 校内アンケート（保護者向け）の「学校は教育活動や学校行事についてわかりやすく伝えようと努力している」「学校は、保護者や地域の方々が気軽に学校に来られるように努めている」の肯定的な回答を82%以上にする。

大阪市立野中小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査及び校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。 ○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 80%以上にする。 ○新たに不登校になる児童の割合を0にする。 ○小学校学力経年調査及び校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 ○小学校学力経年調査及び校内調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 ○小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 88%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 児童が安心して落ち着いて学校生活をおくれるよう規範意識を高める。 ()	B
指標 ○児童の規範意識を高める機会を設ける。 ・学期に 1 回の「ふり返り週間 2 ウィーク」を設ける。 ・年に 2 回の児童会による「あいさつ運動」の取り組みを行う。 ・毎回の児童朝会で啓発する。 ・看護当番によって登校時と休み時間に啓発する。 ・年に 3 回のアンケートで規範意識の高まりを調べる。 (あいさつのレベルアップに取り組もう・廊下階段は歩こう) ○いじめに対する取り組みを実施する。 ・いじめ相談機能を活用し、いじめ対策委員会で情報を共有し対応する。 ・いじめアンケートを学期に 1 回実施する。 ・いじめ防止強調週間を設け、互いの良さを認め合い、いじめを未然に防ぐ。 ○不登校児童に対して組織的に取り組む。 ・保護者と密に連絡を取り、連絡記録簿に記入し、職員間で情報共有できるようにする。 ・生活指導部会や不登校対策委員会を開き、早期発見に努めるとともに家庭ごとに応じた対応を学校全体で共有し取り組む。	

取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 児童一人一人が自分に自信を持ち、人の役に立ちたいと思うことで前向きに取り組もうとする意識を育てる。 () 指標 ○道徳科の教科書の内容項目に学習重点項目を設ける。 ・「主として人との関わりに関すること」の「親切・思いやり」、「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の「生命の尊さ」を重点項目にする。 ・重点項目の学習後、振り返りを書かせ、児童の意識の高まりを調べる。 ・生活ふり返り週間や学校生活アンケートで、児童の態度の変容を確認しながら取り組む。 ○学年の児童の実態に応じて、児童の自信に繋げられる取り組みを行う。 ・自分のよさを知る取り組みや「いじめについて考える日」及び「いのちについて考える日」の取り組みを行い、自分も相手も互いに大切にすることを学ぶ。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組内容】①について 今年の取組内容については、目標を達成するための手立てとして、適切であった。生活ふりかえり週間は、今年度は連続した2週間に増やしたことで、より児童の規範意識を高めることができた。 また、様々な取組について、児童や学校の現状に応じて、適宜内容を修正しつつ実施できた点もよかった。 児童アンケートの結果については、2学期より3学期において、より向上する結果が得られた。 不登校児童も少なく、いじめの対策についても毎年工夫した取組がなされ、いじめ防止につながっている。 【取組内容】②について 道徳科の学習を通して、自分もまわりの人も気持ちよく過ごせることの大切さを考えさせることができた。 また、「いじめについて考える日」及び「いのちについて考える日」の取組では、お互いのよいところを認め合う「いいところみつけ」の活動も行い、いじめに対する意識を高めることができた。	

次年度への改善点

【取組内容】①について

毎年コツコツと実践を積み上げてきているため、より成果が出てきている。これからも今までの取組を継続していくことが必要である。

規範意識については、休み時間も声をかけるなど、日ごろから児童が意識できるような指導を継続していく。

不登校児童への取組は、担任一人に任せることなく、教職員が連携し、継続して関わっていく必要がある。

また、不登校児童に対して、学びの保証につながる手立てを模索していく必要がある。

【取組内容】②について

児童一人一人が自分に自信を持ち、人の役に立ちたいと思えるように、道徳科の授業を通して、継続的に考えさせていく。

「いじめについて考える日」及び「いのちについて考える日」以外に、自分も相手も互いに大切にすることを学ぶ機会を年度内に設けていく必要がある。

また、年度初めに集中して取り組むのではなく、2学期以降も、人権の授業に関する取組の成果を確認しながら、継続して実践していくようにしたい。

校内調査の学校生活アンケートの項目に「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」を入れ、意識の変化を確認できるようにしてはどうか。

大阪市立野中小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.5 ポイント向上させる。 ○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.5 ポイント向上させる。 ○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を30%以上にする。 ○小学校学力経年調査における「英語の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 72%以上にする。 ○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を60%以上にする ○感染症の予防について理解させ、自分の健康に関心を持つ児童を育成する。	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 「主体的・対話的で深い学び」を追求し、個に応じた指導の充実を図る。 () 指標 ○習熟度別の学習を実施し、発展活用を重視するコース、基礎基本の定着を重視するコースなど、児童が自分に合ったコースを選べるようにして学力の定着を図る。 ○教員の授業力を高めるために計画的に研修を進めていく。また、若手研修を学期に 1 回実施し、指導力向上を図る。若手研修については年数に関係なく希望者は参加できるようにする。 ○意見交流を活発に行う。 ・ペア、グループ、クラスで意見交流を 1 日に 1 回は取り組み、考えを深めたり広げたりできるようにする。 ○外国語活動や外国語の教材の充実を図り、授業で活用することで、英語に慣れ親しむことができるようにする。	B
取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 児童が進んで楽しく運動できるよう、授業や遊び時間等の工夫を行う。また、自分の健康に関心を持つ児童を育成する。() 指標 ○児童が運動に親しむ機会を増やすために、委員会による遊具の使い方や遊びの紹介や、かけ足タイム・なわとびタイムなど、年間を通して継続的に取り組む。	B

○春の体力テストで良くなかった項目を、向上させる手立てを考えて実践し、秋に再度体力テストを行い、得点が向上するようにする。 ○運動の楽しさを味わう授業の構築・指導法を工夫する。 ・ ICT 機器を有効的に使う。 ・ 新学習指導要領にあわせた学習カードの活用 ○清潔しらべを毎週 1 回実施し、感染予防の意識をもつことができるようにする。	
取組内容()	
指標	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組内容】①について 目標にあがっている経年調査については、インフルエンザの流行により、学級休業を行った学年もあり、予定していた日程で余裕を持って行うことができず心配をしていたが、目標を達成できた学年も多かった。 取組については、指標を計画通り進めることができたことがよい結果につながったと考える。 特に若手研修は家庭科・音楽科・道徳科・所見の書き方など、年間を通して、活発に行うことができ、メンター研修の対象教員だけでなく、だれでも参加できるよい雰囲気の中、指導力の向上を図れた。 各学年の授業においては、児童の意見交流を活発に行わせ、授業内容の工夫に力を入れたことで、より学力の定着を図ることができた。 また、外国語については、教材を有効的に活用することができた。しかし、英語に対して苦手意識を持っている児童がいるのも現状である。 【取組内容】②について 清潔調べを毎週行い、健康週間を学期に 1 回設定することで、児童の健康への意識を高めることができた。また、給食委員会の取組として、給食前に手洗いの歌を流し、休み時間の終わりには手洗いを呼びかける活動を行うことにより、手洗いを意識する児童が増えた。 体力の向上においては、1 回目のスポーツテストで結果の低かった項目「ソフトボール投げ」「立ち幅跳び」「反復横跳び」について、再度 2 学期にスポーツテストを行った。 2 回目のテストの前の 1 か月間、投げる力を高める運動や跳躍力を高める運動を体育科の授業に取り入れ、集中して指導することで、1 回目よりも記録がよくなった児童が増え、よい結果を得ることができた。 来年度は、年度初めから、体育科の授業の中に、投げる力を高める運動や跳躍力を高める運動を取り入れ、体力の向上を図っていきたい。 なわとびタイムやかけあしタイムなどの取組を計画通り進めることもできた。持久走記録会を目標に据えることで、児童が意欲的にかけあしタイムに取り組み、持久走の力を向上させることもできた。	

次年度への改善点

【取組内容】①について

今後も「主体的・対話的で深い学び」のために、様々な教科や場面で児童が話し合ったり意見交流したりする場を持つようにしていく。

また、タブレットの思考ツールを使用するなどして、学級の様子把握だけでなく、学年間で相互に児童の意見が見られるようにすると、より深い学びにつながると考えられる。

低中高学年でも、相互に情報を共有することで、学びの系統性にもつながっていくと考えられ、今後は、そのような意見交流の方法について学んでいきたい。

また、英語に関しては、苦手意識を持っている児童のための授業や発問等についての研修に参加し、指導力を高めたい。

家庭学習の場においても、学力の定着を図るために、タブレットの持ち帰りを日常的に行っていくことも、有効であると考ええる。

【取組内容】②について

体力の向上の取組を、年度初めの4月から始め、児童の記録の向上を図りたい。

また、基礎体力をつけるため、休み時間に外で遊ぶ児童を増やせるように、遊具の紹介をしたり、各教室に配っている遊び道具の見直しを図ったりしていきたい。

特に、冬の寒い時期は外に出て遊ぶ児童が少なくなるので、外で遊ぶ児童を増やす工夫を行っていく。

感染予防の意識の向上のために、清潔調べを続けて行い、その結果が児童に見えるようにすることで達成感を味わえるようにするとともに、課題についても児童自身が気づけるようにしたい。

大阪市立野中小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ○ 授業において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 70%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く) ○ ゆとりの日を週に 1 回以上設定する。また、年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 70%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。 ○ 校内アンケート(保護者向け)の「学校は教育活動や学校行事についてわかりやすく伝えようと努力している」「学校は、保護者や地域の方々が気軽に学校に来られるように努めている」の肯定的な回答を 82%以上にする。	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容① 【基本的な方向 6 教育DX】 ICT を効果的に活用し、児童の学習意欲を高め、個別最適な学びおよび協同的な学びを進めていく工夫をする。() ----- 指標 ○ 授業で週 4 日以上学習者用端末を活用する。 ・ 個に応じて教科書の問題を端末で解答させたり、デジタルドリルで問題に取り組ませたりして、学力の定着を図る。 ○ 指導者用デジタル教科書を活用する。 ・ 大型テレビに映し、視覚的にもわかりやすくして学力の定着を図る。 ○ 教員の ICT 研修を実施し、活用能力を高める。 ・ 校内研修日を学期に 1 回開く。 ・ ショート研修によって教員の ICT 活用能力の向上を図る。	B
取組内容② 【基本的な方向 8 生涯学習の支援】 学びの場として、学校図書館を活性化し、授業での様々な学習における利活用を促進する。() ----- 指標 ○ 図書館司書との連携により、図書資料をデータ化し一人一台端末に保存することで児童が調べ学習をより活発にできるようにする。 ○ 毎日昼休みに図書委員会による図書館開放をすることで、読書をする環境を整え、物語文や説明文などの本を読む機会を増やす。 ○ 年に 1 回読書週間を設け、全校児童で本の紹介カードを書き、読み合うことで読書への興味関心を高めるようにする。	B

取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協同した教育の推進】 保護者や地域との交流を深め、地域の一員としての自覚を高めるとともに、学校の様子をより理解してもらえよう情報発信の仕方を工夫する（ ） 指標 ○地域との交流を行う。 ・読み聞かせ・昔あそび・収穫祭・おもいもパーティー・ステンシル体験等 ○学校だよりを地域で回覧してもらう。 ○学校ホームページで情報を発信する。 ・学校ホームページの閲覧数を1週間で100以上にする。 ・学校だより・学年だよりを学校ホームページで閲覧できるようにする。 ○学校からの配布プリントをミマモルメで配信し、保護者が必要な時に閲覧できるようにする。 ○地域とのボランティア活動(縦割り班清掃・地域清掃など)を実施する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組内容】①について 学習者用端末を使用し、学力向上に努めることができた。 しかし、週4日の活用はできない時もあった。 指導者用のデジタル教科書については、毎日活用できている。デジタルコンテンツも活用できた。必要に応じて研修会も開催することができた。 【取組内容】②について 図書資料のデータ化については制約があるため、利用することが大変な場合もあるが、調べ学習で活用することができた。 毎日昼休みに図書館開放をする等、読書をする環境を整え、物語文や説明文などの本を読む機会を増やすことができた。 【取組内容】③について 地域との交流やボランティア活動は計画したものを実施することができ、児童に多様な経験をさせることができた。 行事の中で、保護者の来校数が増えていると共に、リバーウォッチャーなど地域の方々と連携・協同した取組も進められた。学校からの情報発信はHPや学校だよりで行い、保護者との連絡手段としてミマモルメを活用できた。	

次年度への改善点

【取組内容】①について

ICT 機器は教員主体ではうまく活用できるようになってきているが、児童自身がうまく活用できるように考えていく必要がある。活用の割合を上げることに意識を置くだけでなく、よりよい活動内容を考えていく必要がある。

ICT 支援員を全学年に割り当てていくような計画的な活用を考えていく。

【取組内容】②について

図書資料のデータ化については、どんな制約があるのかを確認をした上で調べ学習に活用していく。引き続き、読書環境を整えていく。

【取組内容】③について

低学年に実施している読み聞かせを、地域や保護者の方に呼びかけて高学年にまで拡大できないか、地域の方と相談しながら方法を模索していく。

令和6年度 学校関係者評価報告書

大阪市立野中小学校学校協議会

1 総括についての評価

学校の本年度の取り組み結果を聞き、目標については、ほぼ達成できていたという印象を受けた。なかなか学校が自ら A と自己評価するのは、しづらいと思う。B となっているが、A に近いのではないかと感じた。

数年間、課題があった児童の自尊感情についての結果は、今年度もさらに改善傾向にあり、学校の取り組みの成果が出ていると感じる。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査及び校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75% 以上にする。
- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 80% 以上にする。
- 新たに不登校になる児童の割合を 0 にする。
- 小学校学力経年調査及び校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85% 以上にする。
- 小学校学力経年調査及び校内調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85% 以上にする。
- 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 88% 以上にする。

○学校の様子は大変落ち着いており、自己肯定感については、75% 以上の肯定的回答が得られ、取り組みの成果が出ている。不登校児童の話を知ると、家庭的な影響が大きいと感じ、学校での対応の難しさを感じる。できる限り、学びの保障を家庭と連携して進めていってほしい。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.5 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.5 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 30% 以上にする。
- 小学校学力経年調査における「英語の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 72% 以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 60% 以上にする
- 感染症の予防について理解させ、自分の健康に関心を持つ児童を育成する。

○ 学力経年調査の結果は、学校でインフルエンザの流行があり、複数の学級休業もあったため、学年によっては、実力を発揮できなかった側面もあるが、大阪市の平均を超え、目標を達成している学年も少なくないようだ。学校は、努力をしていると感じる。

○ 全国体力運動習慣調査の結果は比較的良いが、反復横跳びの結果が低いように思う。おにごっこなど、外で走り回ることが少なくなってきたおり、遊び時間の内容の変化も原因ではないかと思う。遊びを通して、体力の向上を図れるとよいと思う。

年度目標：【**学びを支える教育環境の充実**】

【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】

○ 授業において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）

○ ゆとりの日を週に1回以上設定する。また、年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を70%以上にする。

○ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

○ 校内アンケート（保護者向け）の「学校は教育活動や学校行事についてわかりやすく伝えようと努力している」「学校は、保護者や地域の方々が気軽に学校に来られるように努めている」の肯定的な回答を82%以上にする。

○ 色々な地域の団体が学校の取り組みに参加・支援することで、子どもたちも喜んでおり、よい影響が出ていると思う。地域として、これからも協力していきたい。

○ 学校の努力により、保護者が学校に行く機会も増え、保護者アンケートにも、よい結果が出ているようだ。

3 今後の学校園の運営についての意見

○ 学校も努力を重ね、子どもたちの自己肯定感も向上傾向にあり、子どもたちが生き生きと活動しているようで嬉しく思っている。

○ 地域でできることがあれば、これからも協力していくので、言ってほしい。

○ 地域・区役所・保護者で学校の運営にこれからも支援・協力していきたいと考えている。